



2026 年
9 月
No.945

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区文谷砂上原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40 円（郵税を含む）
■振替口座■ 00190-7-71734

説教「滴り落ちる祝福…恵みにより、キリストに結ばれた者の喜び」

日本福音ルーテル本郷教会牧師 奈良部恒平

【都に上る歌。ダビデの詩】見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵みなんとという喜び。かぐわしい油が頭に注がれ、ひげに滴り／衣の襟に垂れるアロンのひげに滴りヘルモンにおく露のように／シオンの山々に滴り落ちる。シオンで、主は布告された／祝福と、とこしえの命を。（詩編133編）

詩編133編は「見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵み、なんとという喜び。」という宣言から歌い

して衣の襟にまで滴り落ちました。これは、聖霊の力が仲介者を通して神の民へと溢れ広がる象徴です。

この油注ぎの完成こそ、真の大祭司である主イエス・キリストです。「キリスト(メシア)」とは「油を注がれた者」という意味です。主イエス様は、真の大祭司として、ご自身の命を十字架で献げられ、神と人を和解させる仲介者となりました。

ダビデは、兄弟の一致を「かぐわしい油」にたとへました。大祭司アロンに注がれた油は、頭からひげへ、それ

天を通過された偉大な
大祭司である主は、死と
復活、そして昇天を経て、
天の至聖所に入られました。



ヘルモン河川保護区から望遠で捉えた、雲に隠れるヘルモン山脈(2011年)

た。その時、聖霊という神の油が、頭であるキリストから、体である教会へと注がれたのです。

そして今、それは私たち一人二人へと滴り落ちていきます。私たちが共に座つていられるのは、生まれながらの罪人である私たちが、キリストの油によつて清められ、主に結ばれて、一つの体とされたからです。

詩人は続いて、恵みを「露」にたとえます。イスラエ

とされたからです。

私たちの人生もまた時にシオンの山々のように、からからに乾ききつてしまふことがあります。人間関係に疲れ果て、心に少しの潤いも残っていないように感じることもあるかもしれません。

しかし、どれほど私たちの魂が乾いていても、天から降る露のように、キリストの恵みは静かに、そして

確実に、届くはずのない私たちの心の深みにまで届

き、私たちを癒やし、生かします。十字架と復活の主イエス様が、渴いた魂に生きた水を注ぎ、再び立ち上がる力を与えてくださるのです。

さて、「シオン」エルサレムは、主イエスが十字架で死に、三日目に復活された場所です。父なる神様は、そこで、十字架の御子イエス様による罪の赦しと」とこ

しえの命(永遠の命)を全人類に向けて布告し、私たちに對する愛を示されました。

こには死に打ち勝たれた
キリストが共におられま
す。私たちは、キリストの
十字架によつて神と和解
させられた者として、永遠
の御国の宴に招かれてい
るのです。

このように、あなたのた

めの「油」は、すでに大祭司、主イエス様の頭から滴り落ち、あなたを覆っているのです。あなたのための「露」、主なる聖霊は、天の父なる神様と御子イエス様から、今、この瞬間も、あなたの心に降り注いでいます。

「あなたがいて良かった。」って言われて嫌な気持ちになる人はあまりいないように思います。好意を持つている人からや家族や友人。色々な立場の

キリストの十字架は神
と人との隔てを取り払い、
復活の主はあなたの兄弟
となり、こうして私たちは
神の子供とされたのです。
神の子供たちよ「なんととい
う恵み、なんとという喜び」で
しょうか。この詩編の告白
を信仰によつて、今日あな
た自身の歌として受け
取ってください。

人から……私もある施設に
いるとき、しかもその方が
私から離れるときに突
然、「あなたがいて良かつ
た。」と言われました。その
人は私が朝、「おはようご
ざいます。」と言つても目
も合わせてくださらな
かつた方でした。あの人
が私に。なんだか嬉しいよう



伊藤早奈 ⑦⑧「あなたがいて良かった」

命
ことは

な驚いたような複雑な気持ちの中で嬉しくなりました。

あの人もそう思ってたさつてたのかなうそれこそ突然思い出しました。何十年も前実習で担当に

ず、明日こそ、と思つていた。その日の朝、天国へと召された人がおられました。明日こそお話しするぞーという意気込みは宙ふらりんの思いとなり、ずーっと今まで私に残されています。

「あなたがいて良かった」と言われているのは私一人ではありません。あなたも、そしてあの人も世界中の一人ひとり全ての存在が言われています。誰からでしょうか。それは神様からです。一人ひとりを造られます。今も大切にしておられます。だからあなたが例え知らなくても神様はあなたを（こ）存知です。

思わぬところでかけられるメツセージ、それは間違えなくあなたに向けられているメツセージです。「あなたがいて良かった。」



た。」と言われました。その人は私が朝、「おはようございます。」と言つても目も合わせてくたさらなかった方でした。あの人が私に。なんだか嬉しいよう

を「存知です。」

「思わぬところでかけられるメッセージ、それは間違えなくあなたに向けられているメッセージです。」

「あなたがいて良かった。」

リレーコラム

「全国の教会・施設から」③9



■日本福音ルーテル長野教会

清水敦代

(日本福音ルーテル長野教会代表)

JR長野駅から車で15分、国宝善光寺の北東の上松地区に教会があります。

宣教65年目で『196

1年4月11日宣教開始
長野市の婦人会館、カリ
コスキー師とルーテルア
ワー受講者15名と、記念
誌に記載がありました。
当時は月1回の礼拝を
守っていたそうです。現在
の会堂は1979年に建
てられました。

長野教会は兼牧時代が
長く、松本教会や首都圏
から巡回説教の牧師が来
て下さり、礼拝を守って
います。信徒は市内在住者
の他飯山・上田の方もお
られます。礼拝は第2週
第4週は秋久潤牧師の司
式、説教(改定式文)、第1



長野教会外観

週、第3週は信徒司式、青
式文、秋久潤牧師説教の
録音音声データを聞いて
います。また、秋久牧師担
当の第2週に役員会、第
4週に連盟会報の聖研
(婦人会は休会)を行って
います。月に一度週報の郵
送とメッセージ書きも
行っています。

今年4月から松本、諏
訪教会との3教会兼牧体
制となりました。今年の
主題聖句「御言葉を宣べ
伝えなさい。」(テモテへの
手紙第二・4・2)を掲げて
取り組んでいます。

甲信地区長野県と山
梨県の五つの教会は、毎
年信徒の集いと合同礼拝
を行っています。役員同士
は顔見知り、これからは
今まで以上に相談できる
関係になれると思います。

教会の名物のソメイヨ
シノは2年前に老木のた
め、惜しみながら伐採し
ました。その古株からひこ
ばえが出てきました。まだ

木が生きているように示し
ているようで、本来切る
(処理する)ところですが、
今のところ見守りたいと、
庭の手入れをしながら
思っています。

原稿を書くにあたり、
記念誌を深く読むと創
立当時の宣教意欲溢れ
る文章に出会い、召天さ
れた先輩の思いを感じ取
りました。

教会の未来は神のみぞ
知るところですが、常に
希望を持ち歩み続けたい
と思います。共に祈り
にお覚えくださればと思
います。

■奈多愛育園

磯部久美子

(奈多愛育園園長)

私たちの奈多愛育園
は、福岡市東区海風薫
る団地の中に位置し、神
さまの愛が真ん中にある
認可保育園です。元気な
子どもたちの姿に加え、園
庭にはツバメやセミ、カニや
ダンゴムシなどたくさん
の来客があります。園には0
歳児から5歳児までの子
どもたち(定員160名、
8月1日現在150名
が在籍しており、少し大き
めの規模で運営していま
す。今年創立75周年を迎
えた園は、歴代の卒園生が
祖父母となって戻ってこ
られたり、地域の方がカブ
ト虫やクワガタ虫を持っ



小泉基

(日本福音ルーテル札幌
教会牧師・宣教室長)

牧由希子

(チャーチ・ワールド・サービス)

小泉 牧さんとは熊

本地震や能登半島地震
など、被災地支援のあり
方を考える中で、いろい
ろと情報交換をさせてい
ただいてきました。お働
きは、チャーチ・ワールド・
サービス(CWS)という
キリスト教系の支援団体
ですよ。どのような団
体なのですか？

牧 私が働くCWS

は、戦後「ララ物資」を日
本に送るために米国で
生まれたエキューニカル
な人道支援団体です。東

てきてくださったりと、多
くの皆さまに支えられな
がら歩んでおります。

いつの時代であつても、
「保育」が変わらず存在し
続けることは大切です。し
かし、時代の変化とともに
少しずつ変わつてきていま
す。子どもたちの成長お
むつからパンツへの移行や、
スプーンからお箸への移行
など、が年々ゆるやかに
なつていくように感じら

れる一方、お昼寝の布団や
シーツはレンタルにおし
ぼりは布から紙の使い切
りに、そして園との連絡は
デジタル化にと、変化が急
速に進み、保護者の負担が
随分軽減されたように思
います。ただ、夏の異常な
暑さは、遮光ネットをつけ
ても園庭で過ごす子ども
たちの時間が極端に
減つてしまつていくこと
は、残念な変化です。

保育では、年長さん(5
歳児)はけん玉や和太鼓
で地域のお祭りに参加、高
齢者施設訪問なども変
わらず取り組んでいます。
それに加え、スイミングク
ラブでのプール体験、小学
校との連携事業、インスタ
グラム、発達支援の園との
交流など新たな取り組み
にも挑戦しています。

本園の保育理念は『神
さまから大切なひとりと

日本大震災を機に再び
東京に事務所を開設し、
日本キリスト教協議会
にも加盟しました。実は
CWSは、このララ物資
の頃からルーテル教会と
も協働関係にあり、後に
ルーテル世界連盟(LWF)
(WCC)とが創設した
act allianceというエキ
ューニカル人道支援連合
体になり、CWSも加盟する
ことになったのです。

小泉 お働きには、難
しさと希望とがあると
思います。

牧 災害大国日本で
あつても、教会関係者含
め一般市民の間で防災意
識はあまり高くありま
せん。そのため平時から
災害支援や防災を目的
として各地の教会とつな
がる難しさを感じていま
す。特に、教会は少子高
齢化の課題に直面してい
て、防災にまで思いが向か

ないのだと思います。それ
でも、さまざまな教会が
「子ども食堂」や「食料配
布」などの生活困窮者支
援に注目しはじめていて、
平時からのこうしたボラ
ンティア活動が、被災外
国人の支援など、緊急支
援の母体になりうると希
望を見えています。

小泉 牧さんとキリス
ト教との出会いを教えて
いただけますか

牧 私がキリスト教と
出会ったのは、入学した
中高がミッションスクール
だったからです。高校生の
頃、校門の前で受け取つ
たチラシを見て参加し
た、夏休みのバイブルキャ
ンプと交換留学をきつ
かけに受洗しました。その
後も、海外留学や海外駐
在を繰り返して、また沖縄
本島北部で10年間生活
し、受洗した教会からは
離れてしまいましたが、現
在は、自宅・職場・活動拠

して愛されていることに、
感謝し喜びをもつて生き
る力を育みます。です。子
どもたちは大好きなご家
族の方と離れ、初めて出る
社会が保育園です。お友だ
ちや先生、たくさんの人か
らの愛情を受け、神さま
がいつもそばにいてくださ
ることを知り、安心して過
ごせる場になるように願
いながら、成長を見守つて
いきたいと思っています。



奈多愛育園園舎

点近くにある教会で礼拝
を守っています。

小泉 牧さんは、前期
の日本キリスト教協議会
の書記もなさつておられ
たんですね。ルーテル教
会に対する期待や希望が
あればお願いいたします。

牧 お話ししたとお
り、ルーテル教会とCWS
は長い協働関係にありま
す。今も私たちが運営して
いるコミュニティカフェの
活動は、日本福音ルーテ
ル東京教会さんに場所を
提供していただいています。
す。これまでの災害支援で
もルーテルの牧師や教会
員の方たちと一緒さ

牧 いろいろあります
が、どんなに努力してもう
まくいかず、つらく苦しい
時は、「何事にも時があり
／天の下の出来事にはす
べて定められた時がある。」
(コヘレトの言葉3:1)を
かみしめて耐えます。



東京教会での
コミュニティーカフェにて。左が牧氏



石居昇夫
(ルーテル学院大学学長・
日本ルーテル神学校教授)

こうして、ディアコニアを教会の本質的性格として捉えるような学びが重ねられてきた一方で、80年代後半から教会と社会が直面してきた変化もあり、教会がどのようにそれを内実化し得たのか、問われることだと思えます。日本には「施設のディアコニア」はあるが、「教会のディアコニア」がないといわれるとすれば、それは私たちの一つの現実なのではないでしょうか。

けれども、ディアコニアを教会の取り組みとするということはどのようなことなのか。私たちの教会の多くは、教員がその教会の地域に必ずしも住んでいないわけではなく、地域社会との関係そのものが各個教会において違っています。「教会」を単にその地域にある建物に集う信仰者の活動として限定するならば、その具体的な実践を果たして誰がどのようにに担い続けるのかはかなり難しいのです。ディアコニアを型にはめ

て考えるのではなく、もう少ししなやかに考えても良いのかも知れません。地域社会に具体的な何かの働きを築いていくというのであれば、教員だけではなく、地域の人々との具体的な交わりが重要になるでしょう。教会はその時々、地域社会の人々との緩やかな交わりの場を提供しつつ、今では子ども食堂や子育て支援、フードパントリーなどを展開してきているように思います。

また、教会員の一人一人が社会の中にあつて、誰かを支え、そのいのちに仕えるものとして、多様な実践の中に協働していることも、福音に生きるディアコニアの姿のように思うのです。

例えば、神学大学・神学校が1982年に人間成長とカウンスリング研究所(PGC)を開所し、今日のような心理士という専門職としてではなく、カウンスリングマインドを市民の中に広めるように先駆的に働いたことはとても大きな試みでした。ケネス・デール先生は「キリスト教の神の愛を伝えるもの」として、カウンスリングが全ての人のために「癒し」を提供する最適な関わりになる(「背景と始まり」25年のあゆみ 1982-2006 PGC



森田哲史
(日本福音ルーテル大森教会
牧師・世界宣教委員)

カンボジア 宣教について①

カンボジア宣教に至るまでの経緯

日本福音ルーテル教会のアジア宣教への取り組みは2002年に始まります。第19期第2回本教会常議員会において、JELCのアジア宣教には三つの可能性があることが示されます。

1. 日本の中のアジアに取り組むこと
2. JELCの中にあるアジア宣教師の働きを整えること
3. アジアに出ていく宣教体制を構築すること

C』と言われていますが、奉仕というものを教会の枠にとらわれることなく、信仰者もそうでない方々も共に支え合い、仕え合うような人間と社会の成長を目指すものだつたと思います。

ディアコニアを、神のこゝろに生かされる者たちが、それぞれの交わりとそゝの広がりの中で、共に生きようとする精神(こころ)と働きの中に確認していきたいと思うのです。

この方向性をもとに、世界宣教委員会ではアジア部門を設置し、情報収集および討議を行ってきました。その中で、メコン川流域への宣教支援を行う、メコンミッションフォーラム(MMF)への派遣を決定し、2006年の浅野直樹Sr.牧師、徳弘浩隆牧師に始まり、現在に至るまで牧師を派遣してきました。

その後、第27回定期総会(2016年)にて、2019年春をもってブラジルへの宣教師派遣を終了することが決議されました。また、第28回定期総会(2018年)にて、ブラジルへの宣教師派遣終了後に、「アジア宣教ネットワーク」(仮称)を組織し、情報収集を行うこと、アジアにおける宣教支援を展開することが決議されました。

アメリカ福音ルーテル教会(ELCA)より、ELCAがすでに行っているカンボジアでの宣教協力への打診があったこと、公益財団法人JELLAがカンボジアへの継続的な支援を行っていることから、第28総会期の世界宣教委員会で、カンボジアルーテル教会への支援を提案することとなりました。そして、第29回・第30回定期総会(2023年)にて、カンボジア宣教が正式に決議

されました。決議された提案は以下の通りです。

(1) 既存のカンボジアルーテル教会の宣教を支援する。

(2) 宣教主体は現地の教会であり、JELCは彼らが計画する宣教を支援する。その際ELCAと連絡を密にする。

(3) 人的交流による支援(ボランティア)

(4) 宣教師の長期派遣ではなく、牧師、信徒、神学生を短期で派遣することを検討する。彼らが取り組む宣教のうち現地のニーズに添って派遣する。たとえば礼拝での奉仕、説教、ディアコニア活動支援(キノコ栽培、養鶏飼育、学童保育等)。

(5) カンボジア教会の牧師、信徒、神学生をJELCに招き交流を促す。

(6) 財政的支援、連帯献金の「メコン流域支援献金」を「カンボジア宣教」に改名して献金を募り、具体的なプロジェクトを支援する。

(7) カンボジア宣教を覚えて共に祈る(世界宣教の日、ペンテコステを活用)。

(8) JELLAが実施する社会活動と連携しながら宣教できないか検討を深める。

※連帯献金「カンボジア宣教」を覚えておさげいただければ幸いです。

カンボジア支援留学生自己紹介



オン・シチャン

フィードバックの方法など、実践的なスキルを学んでいます。また、グループワーク、チームビルディング、文化的感受性、自己認識などへの理解も深まっています。

地元で手に入る資材から作る肥料の作り方や、もみ殻燻炭を用いた病害虫管理、有機的方法で雑草の成長速度を抑制するアイデアなど、カンボジアでは学べなかったことを学んでいます。家畜部門では、ヤギ、鶏、豚に関する知識、飼料の調製、ワクチン、消毒手順、家畜用の日陰施設の建設などを学んでいます。

アジア学院で学んでいることで最も重要なことの二つは、地域資源の活用という考え方です。アジア学院では地元の店舗と連携し、副産物を回収し

て飼料を作っています。豆腐屋からオカラを、食品店から端切れ野菜を回収するなどしています。

帰国後は、これらのアイデアや経験を実践に生かそうと強く決意しています。私を送り出してくれた団体、Lutheran Hope Cambodia Organization (LHCO)と計画をよく話し合い、農村共同体、地域住民のリーダーシップ

スキルを向上させるため、時間管理スキルなど、リーダーシップに関する知識を教えることも提案するつもりです。地域のリーダーたちは支配的なリーダーシップを実践する傾向があるため、サーバント・リーダーシップを啓発していきたいです。

さらに、有機肥料、土着微生物、もみ酢(もみ殻燻炭の煙を冷やした液



アジア学院入学式で挨拶するオン・シチャン氏



緊急募金のお願い 2026年熊本地震支援のために

2026年7月28日に熊本県熊本地方で最大震度7の地震が発生し、教会施設にも被害が確認されました。

日本福音ルーテル教会は九州教区を中心に、専門団体と連携して被災者支援を進めています。

募金は、九州キリスト災害支援センターやNPO法人YNFへの活動資金、松橋教会の修復・支援拠点整備、当教会が取り組む被災者の生活の復旧への支援にかかる活動費の他、今後、必要に応じて他団体との共同での支援活動にも用いられます。

皆さまのお祈りとご協力をお願いいたします。

送金先

郵便振替00190-7-71734
「(宗)日本福音ルーテル教会」

振替用紙に「2026年熊本地震支援」とご明記ください。

体の造り方など、有機農業の技術について農家を指導する予定です。これらの知識はすべて、現地の状況に合わせて自ら実践し、手本を示したいと考えています。

これが、支援者の皆さま、送り出し団体、アジア学院、そして私のコミュニティに対する強い決意です。

最後に、私の研修を支援してくださっているJELC、JELLA、この研修プログラムに参加する素晴らしい機会を与えてくださったアジア学院、これまで私を後押しし、支え、励ましてくださった送り出し団体のLHCOにも、心から感謝します。

日本福音ルーテル教会アジア伝道の第一歩

カンボジアルーテル教会(LCC)からオン・シチャン氏が来日され、アジア学院で学びを深めています。

力によつて、今年度のアジア学院での研修を受けられることとなりました。カンボジアでのディアコニア活動を実現するための学びのためにシチャン氏

このプログラムは、日本福音ルーテル教会(JELC)の第29回・第30回定期総会で決議されたカンボジア宣教の方策の一環の中での人的交流として行われています。

このカンボジア宣教は、日本福音ルーテル教会とアメリカ福音ルーテル教会(ELCA)とが協働して取り組んでいるものです。そしてカンボジアへの支援を長年続けている公益財団法人JELLAの協



JELLA職員のパール・星崎氏(右)とオン・シチャン氏

は、9月まで学びを続けてまいります。どうぞLCC、JELC、ELCA、JELLAの協力関係が続き、アジアでの福音宣教が前進していくことができると祈りを合わせていただければ幸いです。



新任J3 宣教師紹介



アレック・
イングルスルド

私、アレック・イングルスルドは、2026年3月末にアメリカ福音ルーテル教会(ELCA)から派遣され、J3宣教師として日本での奉仕を開始いたしました。通常、多くの宣教師はアメリカから日本へ赴任しますが、私はすでに長野県に滞在していたため、羽田空港から熊本空港への比較的短い旅路となりました。移転にあたっては公益財団法人JELLAのパール・星崎氏に多大なご力添えをいただき、現在は熊本市内のJELLAアパートに住んでおります。

3月の終わりに4月にかけては、九州ルーテル学院での英語授業の準備や、ルーテル学院高等学校での聖書授業の準備に追われる多忙な日々でした。しかしながら、同じJ3宣教師であるステファーン・ライリー先生、そしてELCA所属の長期宣教師であり、九州ルーテル学院の担任教師でもある宮本ケイティ先生に大変親切に助けていただきました。お二人の支えのおかげで、新しい務めに順応し、充実した日々を送ることができました。

また、大変光栄なことに、私の名前が九州ルーテル学院創立百周年記念誌に掲載されてから50年後のことです。かつて伯父が学院にもたらした賜物と才能にふさわしい奉仕ができるよう、心より願っております。

熊本の夏の暑さは時に厳しく感じられますし、2026年7月28日に発生した熊本地震に伴う揺れや余震を経験したことは恐ろしくもありました。しかし、私は信仰に支えられ、九州ルーテル学院、大江教会、そして熊本教会を通して築かれた温かな人々とのつながりの中で安心を得ています。

熊本は、思いやりに満ちた友情と、情熱をもって人々に仕える方々にあふれた場所です。最近

困難や緊張の多い日々が続きましたが、熊本ルーテル共同体が持つ希望、優しさ、そして揺るぎない信仰は、必ずこれからも受け継がれていくと確信しております。

これまでお祈りとご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。神様が熊本をその御手の中で守り、導いてくださいますようお願いいたします。

アーメン。



スペンサー・
ジョルダン

みを通して、日本への愛と、日本の教会と共に歩みたいという思いはますます深められてきました。私が神の召しを意識し始めたのは子どもの頃です。サムエルの物語を読み、「どうぞお話しください。僕は聞いております。」(サムエル記上3:10b)と祈ったことを今でも覚えております。その祈りに神は少しずつ応えてくださり、日本へ導いてくださいました。

東京で新しい歩みを始めることができたことを心から感謝しています。本郷教会学生センターで多くの方々と出会い、新しい友情が与えられていることは大きな喜びです。私は、人との出会いや語りの中で、互いに「あなたは神に見いだされ、愛されている大切な存在です」という福音を伝え合うことも、教会の大切な証だと信じています。

はじめまして。今年4月より、本郷教会・学生センターでJ3宣教師として奉仕しております、スペンサー・ジョルダンです。

今回で2回目のJ3宣教師としての派遣となり、前回は2019年から2021年まで九州ルーテル学院(熊本)で奉仕しました。留学や教会宣教団体での働きを含めると、日本での歩みは8年以上になります。その歩

主に栄光がありますように。